

国民健康保険の収支の赤字が続いています。いつまでも安心して医療が受けられるよう、医療費の節約に協力してください。

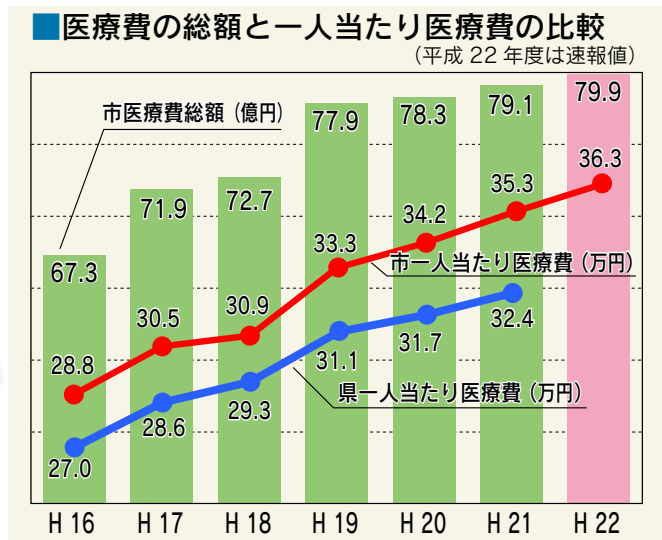
国保の財政がピンチ 基金が底を突くおそれも

国民健康保険（国保）は病气やけがをしたときに、医療費の個人負担を減らし、安心して医療機関を受診できるようにするための制度です。国保に加入している人は、医療費のうち3割を窓口で支払い、残りの7割を市が医療機関に支払います。しかし、市が支払う医療費は年々増え続け、財政的に厳しくなっています。

市の国保財政の収支は、ここ数年間、赤字が続いています。平成22年度の決算も1億1000万円の赤字を見込んでいます。また、16年度末には約8億4000万円あつた基金積立金が、今年度末には3億3400万円に減るおそれがあります。これは収入よりも支出の方が多いため、基金積立金を取り崩して不足分を補ってきたからです。今年度以降も収入不足が見込まれ、数年後には基金積立金も底を突くことが予測されます。

医療費総額が年々増加 県平均を越す一人当たり医療費

国保の財政を支えているのは、加入してい



る人が納める国保税と、国や県から支払われる支出金や補助金、市の一般会計から支払われる繰入金などです。収入全体に占める国保税の割合はおよそ2割で重要な財源のひとつです。

一方の支出は、そのほとんどが、医療機関に支払う医療費です。医療費は年々増加し、患者負担を含めた総医療費が、昨年度は79億9600万円に上りました。これは高齢化や医療技術の高度化による医療費の高額化、生活習慣病の増加などが原因と考えられます。また、本市の一人当たりの年間医療費は、県平均値を常に上回っていて、昨年度の一人当たりの年間医療費は36万2783円でした。

医療費の増加は 加入者の負担増につながる

医療費が増えると、国保の財政が厳しくなり、加入者の負担増につながります。これまで市は医療費が増えても、加入者の負担を増やさないようやりくりをしてきました。17年度以降、医療保険分の保険税率を引き上げたのは21年度だけです。

しかし今年度は、医療費増加による国保会計の赤字額を極力抑えるため、保険税を引き

上げざるを得ませんでした。

日ごろの健康管理で 医療費の節約に協力を

加入者の負担を増やさないためには、医療費を減らす必要があります。しかしそれは、加入者に医療機関を受診することについての我慢を求めるものではありません。むしろ症状が軽いうちに受診することで、治療が長引かず、結果的に医療費が安く抑えられることとなります。

言い古された言葉ですが、大切なことは、日ごろの健康管理と、病気の早期発見・早期治療です。次のことを参考にして、健康づくりを進めましょう。

▽年に一度は健康チェックする

20年度から特定健康診査や特定保健指導を実施し、生活習慣病の早期発見や生活習慣の改善支援を行っています。積極的に受診・利用して、健康づくりに役立ててください。

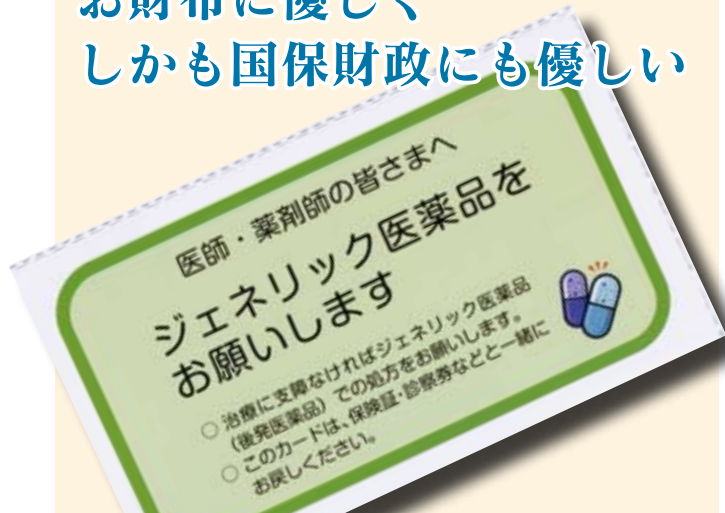
▽かかりつけ医、かかりつけ薬局を持つ
▽薬は用量や用法を理解して正しく使う

▽ジェネリック医薬品を活用する

今後、市としても「国民皆保険制度」の基礎である国民健康保険を維持できるように、適正な医療費の支払いに努めます。加入者の皆さんも国保の財政運営について、ご理解いただき、協力をさせていただきますようお願いいたします。

問い合わせは、市健康づくり課国民健康保険係（☎77・8506）まで。

効き目は同じで
お財布に優しく
しかも国保財政にも優しい

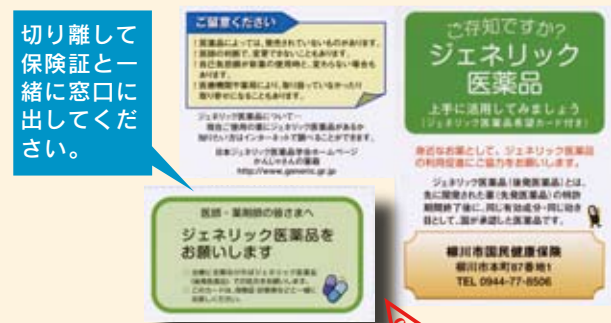


ジェネリック医薬品 という選択もあります

「ジェネリック医薬品」は、最初に作られた薬（新薬）の特許が切れた後に開発され販売される薬です。成分や効果は新薬と同じですが、ジェネリック医薬品は、新薬に比べて開発経費が抑えられるため、価格が安くなります。日ごろの薬をジェネリック医薬品に変えることができれば、家計への負担も軽くなります。かかりつけの医師や薬剤師に相談してみましょう。また、皆さんの薬代の節約になるだけでなく、増えつづける医療費の節約にもつながります。

■ジェネリック医薬品希望カード

医師や薬剤師にジェネリック医薬品への変更を伝えるにくい場合は、「ジェネリック医薬品希望カード」を健康保険証と一緒に窓口に出しましょう。このカードは、7月に送付した国民健康保険税納税通知書に同封しています。切り取り線がありますので、切り離してお使いください。



問い合わせは、市健康づくり課国民健康保険係（☎77・8506）まで。